



三木成夫の考察から 形態異常の原因とそのメカニズムを探る。

花山形態矯正院長 花山水清

済堂出版刊行

はなやま・すいせい

1956年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。チエジの特殊美術制作会社を経営した後、治療家の道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。

07年『腰痛は「ねじれ」を治す』(廣済堂出版)を刊行。

前回触れたように、三木成夫の論文に登場する背中側の胸椎7、8、9番の位置に見られる筋肉のしこりは、形態異常のひとつだと考えられます。しかし、この考察は限局的で、骨格筋の形の変化が、実際には全身的な現象であることは彼は気付いていませんでした。しかも、左側に多く見られる体壁筋のしこりが、右側にあるとしています。確かに、体壁筋（起立筋）は一見、右側が盛り上がり見える場合もありますが、部位をうつぶせにするなどの基準を設けて観察すれば、実際は左側が盛り上がっていることが確認できたはずです。また、肝臓が腫れていると右

側が盛り上がって見えますから、その場合はこの一連の考察からは除外して考える必要があります。それ以外にも、筋肉の形の変化には当然、感覚の変化を伴うという重要なことを忘れてはいけません。

このように、筋肉の形と感覚の左右差を合わせて正確に観察できていれば、それらがすべて左側一側性の現象であることが確認できたはずです。そうなれば、三木ほどの人なら、この現象（形態異常）がいかに深刻な問題をはらんでいるかも十分に認識できたことでしょう。

従来の医学情報からでは、だれも

形態異常への問い合わせに解答を出すことはできません。ですから、なぜ形態異常が発生するのか、また、どのようないかを解説するには、わたし自身、さまざまな仮説を立て反問を繰り返してきましたので、三木のこの考察は、限局的ではあっても解明へのひとつの指針となりました。そこで、改めて一連の三木の考察に沿って、わたくしに疑問を解明していくたいと思います。

三木は、この考察のなかで、この現象の原因是胃の働きが悪いためであり、胃の働きが悪いのは生活習慣のせいだとしています。また、背中

にしこりが発生するのは、動脈血が

なぜからだの危険信号？

No.8

あなたがボツコリ出でていて、仰向けに寝てもへこまない

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

最近、太つてもいいのにおなかだけボツコリ出でている若い女性をよく見かけます。立った姿勢でおなかが出ていても、仰向けになれば、肋骨のある胸部よりも骨のない腹部のほうがへこむのですが、形態異常の場合は腹直筋がこわばつたままなので、おなかがへこんでくれません。

これをただの肥満と勘違いしてダイエットに走る人もいますが、原因が形態異常であれば、ダイエットではおなかがへこまないばかりか、健康を害する恐れもあります。

ダイエッタなら、摂取カロリーから消費カロリーを引いた残高をマイナスにすればいいだけの単純な話です。



背中に行くか胃に行くかを決定する、交感神経の切り替えがうまくできないためだと考えました。しかし、動脈血の影響であれば、背中の左右両方の筋肉が腫れるはずですし、交感神経支配の左右差も同時に考慮しなければ、片側だけ筋肉が盛り上がる現象の説明にはなりません。さらに三木の言う通り、単なる胃の血流の問題なのであれば、胃の状態が改善すれば背中のしこりも消えるはずですが、そのような症例をわたしは診たことがありません。そうなれば、片側だけ筋肉が盛り上がる現象の説明にはなりません。そこで、この場合、動脈血は内臓と体壁筋の両方で阻害されていると考えるのが妥当ではないでしょうか。そこで、動脈の血流が阻害されるメカニズムとして、どのようなことが考えられるか、次回は考察してみたいと思います。



「死のリスクボタン」 形態異常と神経伝達物質のかかわり

花山形態矯正院 花山水清

施術の刺激によって、突然、痛みの感覚が全身で変化し、それと同時に骨格筋の緊張も変化する。そして、それが一瞬でまた元の状態に戻ってしまうという現象（形態異常）を初めて発見したとき、漠然とですが、これはなんらかの神経伝達物質の異常であるとわたしは感じました。

神経伝達物質とは、神経繊維の末端から放出され、細胞などに情報を伝える役目を持つ物質です。形態異常に見られる骨格筋の緊張や感覚神経の突然の変化、血管の収縮などの現象から考えられるのは、アセチルコリンという神経伝達物質の影響です。

アセチルコリンは汗腺の働きにも関与していますが、形態異常の人には、汗が出にくいという特徴もあるのです。汗が出ないと体内に熱がこもりやすいため、苦しくて長い間お風呂につかっていることができなかつたり、サウナに入つていられなかつたりします。逆に、汗腺の働きが活発で、食事をすると額から汗がダラダラ流れるような人には、形態異常が少ないようです。

実は、形態異常の人に施術して正常な反応が出るようになると、体からなんともいえないある独特のにおいが出てきます。においが出るのは、施術の刺激によって汗腺が開いたからだと思いますが、汗腺というのは、

交感神経の末端から放出されるアセチルコリンの量で調節されていますから、形態異常で汗が出せない状態というのも、アセチルコリンが関与している問題だと考えられるわけです。つまり、形態異常の原因は、三木成夫のいう交感神経の切り替えの問題よりも、神経伝達の異常が大きくかかわっているのではないか。まず先に、神経伝達の異常が起こり、その結果として交感神経の切り替えができるなくなるのではないか。そう考えるのが妥当だと思われます。

アセチルコリンの影響が体に害を及ぼす例として、サリン事件で有名なサリンによる中毒が挙げられます。

1955年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経て、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の視点から医学をとらえる「藝術形態學」の確立を目指す研究中。915年『麗輪はねじれ』を発表する』(廣済堂出版)を刊行。

はなやま・すいせい

形態異常

はからだの危険信号 No.9 左の脈が弱い

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら末病の段階でも危険信号です。

正常な体の場合、両手首の同じ位置で脈を取れば、脈の強さに左右差はないものです。ところが形態異常だと、右の脈は強くても、左は弱くてほとんど脈が取れないこともあります。通常、片側の脈が弱くなるのは動脈の部分狭窄のためだと考えられていますが、わたしは動脈への神経伝達に左右差が生じているためではないかと考えています。

また、本来同時に打つはずの脈が、左右で微妙にテンポがずれることがあります。これは形態異常ではあります。どこかに動脈瘤ができていることもありますので、血管の検査を受けてください。



あれ?

右に比べ…
左の脈が弱い!



しようと思います

神経毒であるサリンが口や皮膚から体内に入ると、アセチルコリンを分解するコリンエステラーゼという物質と結合して神経情報の伝達を阻害してしまうため、ひどい場合には呼吸困難を起こして死んでしまいます。これがサリン中毒です。

もちろん、わたしたちの日常でサリンのような急性毒性をもつ物質に遭遇することはめったにありません。しかし、わたしたちの身の周りでも、知らない間にサリン中毒と似たようなことが起きているかも知れないのです。次回はそのことについてお話し



…美術の目で見た医学…

形態異常の原因物質とは

花山形態矯正院長 花山 水清

はなやま・すいせい
1956年生まれ。武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。
0年「腰痛は「ねじれ」を治せ!消える」廣済堂出版を刊行。

以前、形態異常はある種のアルカリドと有機リン系殺虫剤が原因で発症するのではないかとお伝えしました。アルカリドとは、窒素を含む塩基性分子だと従来は定義されていましたが、現在では定義の範囲がより広くなり、アルカリドだとされる物質の数も数千に及んでいます。そのほとんどは植物毒で、タバコに含まれるニコチンもアルカリドの一種です。では、アルカリドは單純に毒なのかというと、実はさまざまな医薬品にも使われている物質でもあります。また、有機リン系殺虫剤は前回お伝えしたサリンと同じような物質です。

アルカリドも有機リン系殺虫剤も人体においてはともに神經毒として作用し、神經伝達物質であるアセチルコリンの働きを阻害します。この作用から見て、両者が形態異常を引き起こす原因だとわたしは考えているわけですが、その考え方を裏付けられるような症例がわたしの身近でも起こっているのです。

ある30代の女性は、出産前には全く形態異常のない健康体でしたが、出産後に突然形態異常が現れ、いくら施術で刺激しても以前のような反応が全く出なくなりました。全身の筋肉がガチガチに固まつた状態で疲労が抜けず、極度に疲れやすい体になってしまったのです。

なつてしまつたのです。
一昔前なら、女性は子どもを産めば体調が良くなるといわれていたもので。しかし現在は、この方と同様によく出産後疲れやすい体质になる方が増えています。この原因不明の体調不良を周囲に理解してもらえないで悩んでいる方も多いのですが、これは単なる育児疲れなどではなく、形態異常の特徴的な症状なのです。
そして、この方たちに共通しているのが、出産時に子宮収縮剤を投与されている点で、この子宮収縮剤と使用されている薬がアルカリドの一種なのです。

また、ある40代の男性は、海外で

はからだの危険信号／10

No.10 授乳中のあ母さんの、左の乳房に静脈が見えにくく

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

授乳中のお母さんの乳房は普段よりも張っているので、静脈がはつきりと見えるのですが、形態異常だと左側の静脈が見えにくくなります。これは左半身の血行が悪いために起こる現象です。赤ちゃんも左の乳房からはお乳を飲みたがらないので、乳汁の味にも左右で違いが出ているのでしょうか。

形態異常だと胸筋がガチガチに固くなります。乳房は胸筋の上に乗った組織ですから、必然的に乳房の状態も悪くなります。そのため、お乳が詰まりがちで乳腺炎になりやすいうです。乳腺炎の治療には、病院で抗生物質を投与されますので、



その時点での母乳を断念せざるえませんが、人工乳のほうが赤ちゃんの成長が早いことから、人工乳を勧めたがる医師も多いようです。しかし、成長が早いことを良しとするのは畜産に対する基準であって、人間の場合は成長が早いことが即ち健康であるとはいえません。体が小さくても元気ならそれで十分です。

この仕事中に誤って有機リン系殺虫剤を頭からかぶつてしましました。すぐ全身を丹念に洗い流しましたが、まぶたの上の皮膚がただれたので病院を受診したところ、膠原病の類似疾患であるサルコイドーシスだと診断されました。この方の体にも事故後形態異常が突然現れ、どこを刺激しても全く無反応な体になってしまったのです。

このような急激な変化を実際に目にすると、やはりこれらの物質は形態異常の原因としてかなり疑わしい存在であると思われます。もちろん、これらの症例だけで原因を特定することはできませんし、他にも同じような作用を及ぼす薬はあるはずです。いずれにせよ、形態異常とある種の薬の間には十分な因果関係があるとわたしは考えています。



病気のリセットボタン⑪ 形態異常とガン(1)ガン発生の仕組み

花山形態矯正院長 花山 水清

ガン患者の体には、明らかな形態異常が見られることを以前お伝えしました。

現在、日本人の2人に1人はガンにかかり、3人に1人はガンで死亡しているほどガンは身近な病気ですが、ガンと聞いただけで直接死と結びつけて考え、恐怖心のせいで大切な情報にも耳をふさいでしまう人が多いようです。そこで、形態異常への理解を深めていたくためにも、一旦ここでガンについて復習してみたいと思います。

ガンは、さまざまな発ガン物質や老化現象によって発生、成長する遺伝子の病気です。新型ウイルスによ

る病気などとは違い、太古の昔からあった病気で、人間だけではなく無脊椎動物などあらゆる動物にもガンは見られます。

ご存じのように、人間の体は約6兆個の細胞からできています。そのうちひとつでも、細胞のDNAが発ガン物質によって傷つけられると細胞がガン化します。本来の正常な細胞は、ある程度の期間で増殖をやめようとしています。しかし、細胞がガン化した細胞はいつまでも増殖を続けます。その結果、およそ10年余りで早期ガンとして発見される大きさになります。しかし、ひとつのDNAの異常だけでは発症せず、少な

くとも8~10個の異常が重なると発ガンするといわれています。

人の細胞は一生のうちに約100億回もの変異を起こし、1日に何千個ものDNAが損傷を受けています。それでも、DNA損傷認知修復遺伝子が損傷したDNAを認知して修復、サブレッサー・ジンがガン細胞の増殖を抑制、ナチュラルキラー細胞がガン細胞を攻撃、といった一連の機能が正常に働いている間は発症しません。しかし、老化などでこれらの機能が衰えるとガン細胞はどんどん増殖し、その結果、ガンとして発症するのです。

現代は、発ガン物質の増大に伴い、

1956年生まれ。武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の概念から医学をどう見る「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年「腰痛は『ねじれ』を治さず治る」(廣済堂出版)を刊行。

はなやま・すいせい

形態異常

はからだの危険信号② 仰向けに寝ると両肩が床に着かない

No.11

仰向けに寝ると、正常な体であれば両肩は床に着くものです。ところが形態異常の場合、焼いたヌルメが丸くなるように、筋肉が収縮して両肩が胸の側に巻き込んでしまって、肩が床から浮き上がってしまいます。

DNAに損傷を受ける機会も格段に増えているため、ガンの患者数も急増しています。しかし、ガンの原因が老化であるなら、長生きすればだれもいはずはガンになります。患者数が増えたのは、ガンが発症する年齢まで長生きできる人が増えたと

いうことであって、以前ならガンが発症する前に他の病気で亡くなっています。ですから、ガンは老化現象であるという意味では、高齢でになる人がいるということなのです。問題なのは、働き盛りや若年でガンになる人がいるということなのです。遺伝によるものを除けば、若年で発症するガンは、一部の臓器の急激な老化であるといわれています。それではなぜ、若年で急激な老化が生まれてしまうのか、そもそも老化とはいつたい何なのか、次回お伝えしたいと思います。

また、この症状が出ている人は寝つきが悪く眠りも浅いため、夜中に

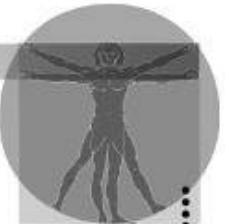
目が覚めることが多いです。これも形態異常の特徴で、本人が力を抜こうとしても体の緊張が取れない

仰向けに寝ると、正常な体であれば両肩は床に着くものです。ところが形態異常の場合、焼いたヌルメが丸くなるように、筋肉が収縮して両肩が胸の側に巻き込んでしまって、肩が床から浮き上がってしまいます。

こういった症状の人たちは、口を開けて「枕が悪いせいでしょうか」とわたしに訊かれます。しかし、原因が形態異常であれば、いくら高価なオーダーの枕に替えてみても、根本的な解決にはなりません。正常な体であれば、どんな枕でもよく眠れるものです。



また、この症状が出ている人は寝つきが悪く眠りも浅いため、夜中に目が覚めることが多いです。これも形態異常の特徴で、本人が力を抜こうとしても体の緊張が取れない



「アートのリハビリトボクシ」 形態異常とガン(2) 老化とストレスとガンの関係

花山形態矯正院長 花山 水清

体のどこかが痛くなつて病院に行くと、老化だから仕方がないといわれたりします。近頃の医療の現場では加齢というそうですが、その意味するところは変わりません。近年、その老化の仕組みや原因が科学的に

もかなり解明されました。老化は「老化の遺伝子」にプログラムされているとか、体細胞の分裂回数に元々限界があるといったような「内因」と、活性酸素による体内の分子レベルでの変化や、生活環境の変化といった「外因」によって、免疫やホルモン分泌の機能が低下することでおこるようです。

ガンも老化現象の一つであることには以前お伝えしましたが、要するに、老化によって遺伝子に転写異常が起これり、老化による免疫機能の低下で細胞の修復ができないになると、ガン細胞が増殖してガンが発症するのです。

それではなぜ、老化であるはずのガンが若年層にも多く発生するようになつたのでしょうか。このことがガンの発生原因解明には一番重要な点だとわたしは考えますが、一般的には、生活環境における発ガン物質の増加やストレスの増大が原因であると考えられています。確かに、ストレスが免疫力を低下させることは医学上実証されていますので、病院でもストレスを溜めるなどいわれますし、原因不明で治療効果の低い病気はストレスが原因であるとする傾向が強まっています。しかし、病気の原因をストレスに求めるのは、真的に原因究明からの逃避だとわたしは考

えています。一昔前には、胃潰瘍はストレスが原因で発生するといわれていたのに、今ではピロリ菌が主な原因だと考えられているように、研究が進めば原因がストレスではないことが明らかになる病気が多いはずです。

実は最近になつて、免疫機能には神経伝達が関与していることが解明されました。ガンは免疫機能の低下もストレスを溜めるなどいわれますし、原因不明で治療効果の低い病気はストレスが原因であるとする傾向が強まっています。しかし、病気の原因をストレスに求めるのは、真的に原因究明からの逃避だとわたしは考

えています。一昔前には、胃潰瘍はストレスが原因で発生するといわれていたのに、今ではピロリ菌が主な原因だと考えられているように、研究が進めば原因がストレスではないことが明らかになる病気が多いはずです。

しかし、ガン患者の体に多く見られる形態異常には、神経伝達の異常が関与していることは明らかで、神経伝達を正常な状態に戻してやりさえすれば、形態異常はある程度まで取り去ることができます。形態異常もガンも、ともに神経伝達の異常が原因であると考えるなら、神経伝達の正常化は形態異常だけでなくガンにもなんらかの影響を与えられるはずなのです。この考えに基づいて施術した結果が、形態異常とガンとの因果関係を示しているのです。



形態異常

はからだの危険信号／No.12 左足が細くなる

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら末病の段階でも危険信号です。



で発症するのですから、神経伝達の異常がガン発症の要因であると導き出すことができます。ではなぜ神経伝達に異常が起こるのかとなると、

ここでもまたストレスが原因だとされますので、現在の医療ではガンと神経伝達との関係解明はそこで行き詰まっています。

一般的に、右利きや左利きといふのは腕に使われる表現ですが、足にも利き足というものがあります。腕の場合、よく使う利き腕のほうが太くなるのが普通でも、一般の人が片足だけを使う状況はあまりありませんので、左右の足の太さはほぼ同じなのが正常です。

しかし、中高年の男性が動脈硬化のせいで片足が細くなっていることがあります。このとき、細いほうの足の鼠蹊部では脈が取れないのが特徴です。そのような特別な疾患やケガなどの理由がないのに、左足だけがかなり細くなつていて右足よりも筋肉が硬くこわばっているなら、そ

1955年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をどう見る「美術形態学」の確立を目指して研究中。00年「腰痛はねじれ」を治療用消臭剤を発行。『腰痛はねじれ』を治療用消臭剤を発行。



細胞の「形態異常」とガン(3)

花山形態矯正院長 花山 水清

会社の定期健診で、ガンの疑いがあつて再検査を受けたことがある方もいると思います。病院での再検査の結果、やはりガンらしきものがあるとなつたら、最終的にガンかどうかを判断するには、たいていの場合、その部分の組織を取って病理検査に出します。病理検査では、問題の組織を病理医が顕微鏡で見て、細胞に異形化したものがあればガンだと判定します。

わたしは、人体の形や感覚に規則的な変化が現れた状態を形態異常と呼んでいるわけですが、ガン細胞の形にもある程度の規則性が見られるようです。規則性がなければ闇雲に

判定することになりますから、規則性があるのは当然ですが、女性の生理の周期によつても細胞の形には微妙な変化が現れたりするそうですから、正確に異形細胞を判定するには、かなりの習熟を要します。

この病理検査における病理医は、裁判で判決を下す裁判長のような役割を果たしていますが、最近、この判定にかなりの誤差があることが問題になつています。しかし、正確な判定を望むのは当然のことながら、ガンを見逃すと後でたいへんなことになりますから、通常の裁判と違って、疑わしきは罰するという判決を下さざるをえないようです。

形態異常

はからだの危険信号／左耳の下のくぼみが浅い

No.15

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

耳の下と下アゴの付け根の間には、隙間があつてくぼんでいます。この隙間の左右の違いは、自分の指でなぞってみればわかります。このくぼんだ部分が左側だけ浅くなっているようなら、それは形態異常かも知れません。

この部分には、頸静脈二腹筋リンパと耳下腺リンパがあります。リンパ腺というのは風邪などの感染症でも一時的に腫れることがあります。

しかし、左側だけ硬くなつて、腫れた状態が続くのが形態異常の特徴で、この症状はアレルギー性疾患の人、特に顔の皮膚にトラブルがある人に多く見られるようです。

リンパの腫れといえば、首の周り

イラスト・デザイン 上村千葉



■左側だけくぼみが浅い

のリンパ節が腫れている場合、悪性リンパ腫の危険性があります。悪性リンパ腫は全身どのリンパ節でも発生しますが、比較的、首の周りで発生する頻度が高いので、もし、リンパが腫れているのに痛みもなく、次第に大きくなつていくようだつたら、早めに病院で検査を受けてください。

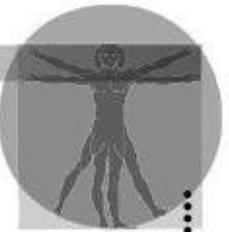
きもしますが、家に例えるなら柱や梁にあたります。柱や梁の組み方が変われば家の形も変わるように、微小管が変形すると細胞の形も変わってしまいます。アルカロイドは、この微小管に作用して細胞を変形させます。

ひとつひとつの細胞が積み上がつて組織となり、人体を構成していることを考えると、アルカロイドによって細胞レベルで規則的な変化が起きるとき、体全体でも規則的な変化が起きている可能性があると思います。

また、形態異常の発症にはアルカロイドが直接関与しているとわたしは考えていますので、これらを合わせて考えると、細胞に変化をもたらしたアルカロイドか、同時に形態異常を引き起こし、その結果、ガンを発生させるのではないかと考えられるのです。

はなやま・すいせい

1956年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。02年「腰痛は「ねじれ」を治せば消える」(医経堂出版)を刊行。



「形態異常」と「ガン」の前兆

花山形態矯正院長 花山水清

1956年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経験した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を重視とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。

はなやま・すいせい
015年『腰痛は「ねじれ」を治せば消える』(廣済堂出版)を刊行。

形態異常



わたしは今まで、さまざまなガン患者さんの体を診てきました。その多くは、ガンの種類にかかわらず形態異常が極まっている状態でした。重度の形態異常がある場合、丹念に体を診ていくと、ザラザラとしたりンパの腫れが広がっている部位が見つかります。この独特な感触のリンパの腫れと、重度の形態異常という二つの条件が揃った人には、病院で検査を受けてもらいます。すると、必ずといっていいほど、わたしの指摘した部位にガンが発見されるのです。

この形態異常とガンとの因果関係が科学的に立証されれば、現在よりは早い段階でのガンの発見が可能になるはずです。しかし、現在のわたしはこの事実を立証できる立場にありませんので、まずはこの形態異常の理論と改善法を、医師や民間療法の方たちに伝えることから始めています。

体のプロであっても、概要を説明しただけでは形態異常がいかに深刻な問題であるかはなかなか認識できません。ところが、実際に形態異常を持つ患者さんに施術してみて、形態異常を取り去ることがいかに難しいかがわかつてくると、皆これがただ事ではないことに気付き始めます。通常、正常な体と異常な体の違いは

病気の有無で区別されますが、普段から人の体に触り慣れていると、形態異常がある状態こそ、とんでもなく異常な体だと認識せざるを得なくなってくるのです。そして、改めて周りを見回してみると、あまりに形態異常の人が多いことに気付いてがくぜんとするようです。

わたしは形態異常がガンの前兆ではないかと考えていますが、一般的にはないかと考えていますが、一般的に考えられているガンの前兆とは、出 bleedやしこりなどがある状態のことなどを指します。しかし、これは既にガンができるいる状態です。本来、前兆というのは現象が発生する前の段階を指すものですから、この状態は

むからだの危険信号／運動で鍛えたわけでもないのに腹筋が硬い

No.14

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

■寝転んで力を抜いた状態で

●寝転んで力を抜いた状態で
●腹筋が硬い！

本来、筋肉というものは力を入れると硬くなり、力を抜くと軟らかくなるのが正常です。スポーツ選手のようにハードなトレーニングで鍛え上げた筋肉は、見た目は硬さでも、触つてみると意外に軟らかいものなのです。しかし、運動もしていないのに、なぜか見た目にも立派な腹筋をしている人がいます。こう人は、力を抜いても腹筋が硬くてガチガチのままのが特徴です。これは若い男性に多く見られる現象で、このタイプの現象は、

実際には、これは若

い男性に頻度の高い形態異常の一つで、当然ながらかの形態異常も併せてあります。また、女性で同じように腹筋が硬い人の場合、下痢よりも、極端な生理痛として症状が現れることが多いようです。

初期症状と呼ぶべきであって、決して前兆ではありません。ですから、リンパの腫れなども含めた初期症状がなく、なおかつ軽度の形態異常が現れている段階こそ、ガンの前兆といえるはずです。

しかし、ガンと聞いただけで耳をふさぐ人は多いものです。ガンになれば、痛みでもがき苦しんで必ず死に至るという「昔前のイメージ」が強いため、話題にすることさえ忌まわしいと感じるようです。けれども、仮に形態異常がガンの前兆だとするなら、前兆を自覚した時点で自らの生活習慣を改善すれば、10年後に発症するかも知れないガンを、先送りにできる可能性もあるのです。ここにこそ、一般の人に形態異常の存在をお伝えする意義があるとわたしは考えていました。